

□議員名：中岡 英二

1 小野田中央青果の活性化について

論点	小野田中央青果の現状について。
回答	小野田中央青果は昭和58年に開設し、生鮮食品の需給の円滑化と取引の適正化を役割として運営しているが、平成19年をピークに売上は減少している。

論点	売上が、ピーク時8億数千万であったものが、現在4億5千万に減少してしまっているがその原因は。
回答	売買参加者や出荷農家の減少により、出荷物が減少しセリ売りが厳しくなる中、契約的栽培や相対販売に努めている。又、台風・地震や異常気象による青果物の減少がその原因と思える。

論点	売上衰退の大きな原因は、産地や買受人の市場に対する信頼がなくなっているためではないか。
回答	価格の透明性は信頼確保のためには重要であり、市場に対するチェックは、体制を含めて透明性・信頼確保に向けた取り組みを検討する必要があると思う。

論点	小野田中央青果と小野田青果販売の社長が同一という事だが、この二社は同一会社なのか、また、物と金のチェックはされているのか。
回答	小野田中央青果は卸売業者で、小野田青果販売は買受人の一社で別会社。青果販売は、買受人なので、卸売業者である小野田中央青果から商品の買い取りをしているが、物と金の日々のチェックはしていない。

論点	長年にわたり出された補助金は、小野田中央青果・小野田青果販売を助けるためか。
回答	補助金については、小野田中央青果一社に出したもの。

論点	この二社の物流・金の流れをチェックしていないのは、この二社に補助金が流れていると疑われてもおかしくないのでは。
回答	物流・金の流れをきちんとチェックする事で透明性を確立できるようにとのご指摘だと思う。行政としても、卸売業者の透明性は重要な事と思う。チェック体制を検討していきたい。

論点	小野田中央青果の改革案と将来の構想について
回答	産地や生産者・買受人の方々との信頼確保、市場の透明性の確保を重視し、販売努力・企業努力を含めて活性化に取り組みたいと思う。

2 公共交通の見直しと交通網構想

論点	南部地区のデマンド交通実施について
回答	地域の特性やニーズを考慮し、デマンド型交通の他、既存タクシー車両を活用した手段、他市の取り組みも参考にする。